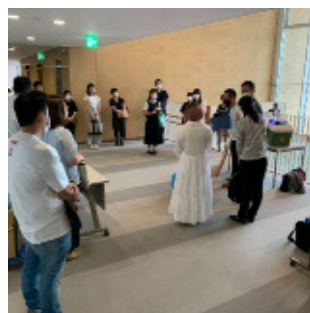


令和 3 年度

津市 P T A 連合会

小学校部会 交流会

報 告 書



[開催日時] 令和 3 年 6 月 27 日 (日) 9:30 ~ 12:00

[開催場所] 津市安濃中公民館

ごあいさつ

津市 P T A 連 合 会
会 長 木原 剛弘

平素より、津市 P T A 連合会の活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今までに体験したことのないコロナ禍と呼ばれる事態のなか、各地区において子どもたちのための活動を行っていただいていますことに心から敬意を表します。

長期化する新型コロナウイルスとの戦いは、子どもたちの健康面、精神面に影響を与えているのではないかと心配をしています。また今年度より、一人一台タブレット端末を用いた学習がスタートし、まさに学校教育のあり方が大きな転換期を迎えています。こんな時だからこそ、われわれ P T A が情報を共有し、各家庭、学校、地域をつなぎ合わせ、子どもたちのために課題解決にむけ取り組むことが必要であると考えています。

今年度も 6 月に開催しました小学校部会交流会の報告書を発行させていただきました。この報告書を基に、各地区の課題や取り組みを広く共有いただき、それぞれの地区での活動のヒントとなりますことを、ご期待申し上げます。

津市 P T A 連合会では、「つながろう P T A ! 子どもたちの輝く未来のために」のスローガンのもと、より一層の情報共有に努めてまいります。引き続き、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、小学校部会交流会の開催にご尽力いただいた部員のみなさまをはじめ、ご多忙のなかご出席いただきましたみなさまに厚くお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ

津市 P T A 連 合 会
小学校部会担当 副会長 樋廻 昌彦

日頃は、津市 P T A 連合会活動にご理解とご協力をいただきお礼を申しあげます。

各小学校部員の方々にご協力をいただき、感染防止対策を行いながらも小学校部会交流会を開催することができました。

コロナ禍の影響で多くの単位 P T A の活動が十分に行われていなかったこともあり、分散会では、他校での活動状況について熱心に話をする姿がありました。これからの P T A 活動、そして、コロナ禍での子どもたちの今後について不安を持つ方が少なくない状況のなか、本交流会は「情報交換の場」としての良い機会になったことと思います。参加者の大半が初対面であったにもかかわらず、分散会が始まると、ほとんどのグループから笑い声が聞こえるなど、和気あいあいと楽しんでいる様子を見ると、交流会を開催してよかったと思います。

なお、分散会で出していただいた多様な意見は、情報共有を図る観点から津市教育員会事務局へフィードバックを行いました。また、分散会参加者から不安や質問が多かったタブレット端末等については、本報告書にまとめましたのでご覧ください。

県内でも新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大が報じられるなか、「子どもたちの学びの場の確保」が喫緊の課題となっています。今まで以上に学校、P T A、そして行政が連携を取り、この困難を乗り越えていかなければならず、津市 P T A 連合会としても、横のつながりを意識しながら、取り組んでいきたいと思っています。

報告書記載事項についての回答

各グループの報告書に記載いただいたご意見およびご質問について、津市教育委員会事務局（市教委）にも確認をし、津市PTA連合会として回答できる範囲で下記に記載します。

各グループの報告書とともにご確認下さい。

令和3年8月
津市PTA連合会

（1）タブレット端末の補償について

市教委としては、タブレット端末の故障、破損による補償については、故意もしくは明らかな過失でない限り、市が負担することとしています。故意（故意と思われる）もしくは明らかな過失（明らかな過失が疑われる）場合については、保護者に相談の上、修理費用等をご負担いただく場合があります。

1学期が終了して、すでに何件か故障、破損が発生し、市負担にて修理を実施しています。

また、この補償についての方針は、導入当初より市教委が同様に対応しています。津市PTA連合会としては、保護者のみなさまに理解が進まず、ご心配いただいている点については、今後の課題だと考えています。

※ 附属小学校および附属中学校については、独立行政法人として独自の対応となり、市教委の対応とは異なります。引き続き情報交換に努めて行きたいと考えています。

（2）タブレット端末の持ち帰りについて

今年度は、モデル校（4校）を除いて原則、タブレット端末の持ち帰りは行わない予定です（臨時休業や緊急事態宣言が発令された場合など、必要に応じて持ち帰ることも想定しています）。

ただし、新型コロナウイルス感染症に伴う自宅待機など登校できない場合などには、タブレット端末を持ち帰り、すでに家庭学習に利用しています。

またモデル校についても、持ち帰り実践は2学期以降の予定です（1学期中に何度か実験的に持ち帰りをしたモデル校もあったようです）。

タブレット端末（iPad）は、キーボード付きのケースに入れて使用をしており、持ち帰り時もこのケースに入れて持ち帰る予定です。

※ 報告書に「タオルに包み持ち帰った」と記載がありましたが、どのような状況だったのか不明ため判断しづらいですが、市教委としては上記のように持ち帰りに対応しているとのことです。

（3）タブレット端末と学習機のサイズ

タブレット端末を使うには既存の学習機のサイズが小さいのではないかとのご指摘もありましたが、利用端末がiPadであり直ちに学習機が小さすぎるということはないと思われます。また、タブレット端末を利用するときは、ノートなどを片付けてから利用するように指導するなど有効利用に努めていると聞いています。

また、学習機を大きくすると、教室が狭くなるなどの別の問題が生じることもあり、今後の利用状況をしっかりと注視していきたいと考えています。

(4) その他のGIGAスクール構想について

子どもたちが生きていく“新たな社会”は、“ソサエティ 5.0 (Society5.0)”といわれる高度なネットワーク社会です。新学習要領では、その新たな社会に順応し、生き抜く力を養うことが求められます。

もちろん、いままで培った学校での学び（教育）のあり方と、タブレット端末に代表される新たな学びのあり方はどちらかを選ぶものではなく、ともにあるべきものだと考えています。

今回の報告書を見る限り、残念ながらGIGAスクール構想についての保護者の理解が予想以上に進んでいないことが分かりました。津市PTA連合会としても、今後どのように保護者のみなさまの理解を得ていくかは大きな課題であると考えています。

(5) 水泳授業について

水泳（プール）授業について、市教委としては今年度は実施を決定しています。ただし、感染予防について充分に対策がとれない（リスク回避が難しい）場合については、各学校の判断で今年度の実施を中止した学校もあったと聞いています。

各学校によって、児童数の違いや、更衣室の大きさ、更衣室に振り替える空き教室の有無、水泳授業中のディスタンス確保のための見守り教員の確保など、状況が違うことから、一律での判断は難しい状況です。津市PTA連合会としては状況を理解しつつも、各学校でさらなる工夫を重ねていただき、可能な限り多くの子どもたちの学びの機会が保障されることを希望しています。

(6) プール清掃について

プール清掃についてですが、昨年度はコロナ禍のなか水泳授業が中止され、プール清掃も中止となり、全校において清掃および点検がなされませんでした。しかし、施設維持の観点から、今年度については水泳授業の有無にかかわらず、濾過器等の設備点検がなされました。

設備点検の実施にともない、プール清掃が必要となるのですが、その清掃の実施方法については各学校で対応が分かれたようです。

従来は、児童と教員でプール清掃を実施していたものですが、コロナ禍のなか児童が実施することが難し状況もあったと思います。実際、児童とともに実施した学校や、教員のみで実施した学校、清掃を外部業者に依頼した学校もあったと聞いています。またPTAの理解のもと、PTA会計から外注費用を支出をした学校もあったようです。

津市PTA連合会としては、施設維持の観点から点検、清掃が必要であることは認識をしており、その方法については各学校の判断と考えています。PTA会計の支出については、PTAの同意が前提となりますので、学校側がしっかりと話しあっていただくことが必要であると考えています。

以上

グループA

参加小学校：南が丘小、高茶屋小、立成小、附属小、千里ヶ丘小、みさとの丘、敬和小

(参加人数：7名)

司 会：川口 真一
記 録：東 えりか

■ G I G A スクール構想について

- ・ G I G A スクールについては、様々な意見がありデジタルに慣れていない方は抵抗がある。
「勉強は、鉛筆と紙を使い学ぶもの」といった意見や、
見ている方には「遊んでる様にしか見えない」などの意見もあった。
コロナ禍においては、学校が休校になった場合でも、家で勉強ができ教科などが遅れないですむなど、肯定的な意見もあった。
- ・ 保護者として心配なのは、不審なサイトなどに入ってしまうのか、危険ではないか、という心配がある。 I C T ツールが進んでいる学校は、最初の時は自分たちも同じ心配をしていたが、フィルタリングや、使用サイトなどに制限をかけたり、学校で使用する際にはちゃんと先生が子どもたちの見ている画面を把握しているということが分かり安心できた。
- ・ 保護者の認知不足のために反対意見が多いのではないかと。保護者の方の勉強不足か。保護者向けの G I G A スクール勉強会など開催出来ると良いのかもしれない。

■ P T A 活動（学校行事）について

- ・ P T A 活動については、やはりコロナ禍の中、行事などが次々に中止になってしまった。
- ・ どの学校も運動会だけは感染対策を行い開催。
対策としては、午前午後に分散する、
 - ・ 午前中だけの開催、
 - ・ 休日ではなく平日開催、
 - ・ 低学年高学年に分け片方が午前運動会、もう片方は普通授業で弁当も要らず給食を食べる、
 - ・ 見学は2名のみ、
 - ・ 競技種目も少なく、もちろん P T A 種目も無し、
 なかには運動会というネーミングを変えたところもあるなど色々と工夫し開催された。
ただ運動会と言うよりは体育の授業を見ているかのような意見も。
- ・ 子ども達の要望を聞き、例年通りの運動会を開催したところもあった。学校としては種目など無くすのではなく、感染防止対策を入れて、やれる事はやるとして開催された。
対策としては、
 - ・ 参加保護者人数は各家庭2名までとしGoogleフォームを用いて人数や名前を把握する、
 - ・ 通路などは一方通行のみ、
 - ・ 濃厚接触の可能性のある体操などの種目は他の種目に変更するなど。

■ 本部役員の選出方法について

- ・ 本部役員の選出方法については、まず立候補がいらないか聞き、いないようならくじ引きへ進むという学校もあれば、Zoomを使い選挙を行うなど。
- ・ 会議もZoomを利用し、手紙もペーパーレス、全て I C T ツールを使い伝達し

- ている。うまくZoomやGoogleフォームなどを積極的に使っている。
- ・任期年数は学校の規模などにより様々のよう。P T Aや本部役員には外国につながる方が少ないところも多い。国際化が進んでいる今、もっと参加していただきたい。

グループB

参加小学校：西が丘小、一身田小、新町小、成美小、芸濃小、附属小、誠之小（参加人数：7名）
 司 会：フォレスト 幹子
 記 録：稲垣 進也

■ G I G A スクール構想について

- ・補償については話しをしていない学校がほとんどで、端末の活用状況等については以下のような意見があった。
 - ・校長先生が生徒と同じ端末を使って色々な学校生活の様子を発信している。運動会のメイキングもあり、先生が積極的に発信して好評。
 - ・タブレット端末を用いて授業参観を実施。休み時間に端末を使ってY o u T u b eを見ている子もいる。
 - ・タブレットの授業参観を実施。端末を持ち帰れるようになると家庭での端末設定とか対応できるか？
 - ・端末の活用はわからない。子どもの端末使用が不安。
 - ・端末を持ち帰れると案内があるのでは？扱い等も今後学校側からあるのでは？アンケートがあったので。
 - ・端末用の袋を持っていたので、今後持ち帰ることを検討かな？

■ P T A 活動について

- ・色々な活動を中止している学校がほとんどであった。
- ・きずなネットを活用して学校に行くことが減った。ただし、会計関係は行かなくてはならない。
- ・学校に行って会計処理。
- ・期首に各部に一括手渡しして会計管理。
- ・会計が通帳を持って管理している。
- ・プールの清掃は各学校がP T Aに頼んでいるが、なぜ市はお金を出さない。
- ・今年は、5、6年だけプール授業がある。
- ・1万円以上はP T Aの承認がいるというルールあり。
- ・学級委員は今年は例年通り立てる → 4校（うち1校は部長のみ）
- ・中学校区のP T A球技大会なども実施予定 → 2校
- ・去年中止だけど今年は開催
 - 地区懇談会、授業参観、体操服バザー、など。
- ・昨年も今年も行事がほとんど中止になっていない。
- ・バザーを実施→3校
- ・給食試食会を実施
 - 2校（うち1校は好評で、1校は不評だったとの報告があった。）
- ・役員会議→L I N Eとかでは結局時間がかかるので集まってしている。

■ 本部役員選出について

- ・ 未就学児がいる家庭の役員選出について
 - 3才以下は免除
 - 自分が免除申請する
- ・ 本役員が次回役員を目処つける
- ・ 地区委員が次回PTA役員
- ・ 父親が参加した方が良い

■ 今後の交流会について

- ・ みんなが聞きたい話を集約して本部にあげる仕組みが欲しい
- ・ ペーパーレス化の取り組み
 - Googleを利用して書記が管理。
(案内はGoogleアカウント、アンケートはGoogleフォーム)。
 - 印刷は業者に頼んでしている。
- ・ 交流会の集め方は工夫した方が良い。
- ・ アンケートも実施した方が良かった。

グループC

参加小学校：北立誠小、戸木小、栗葉小、豊が丘小、修成小、川口小、黒田小（参加人数：7名）
 司 会：村上 まどか
 記 録：清水 美佳

■ コロナ禍で変わったこと、コロナ禍でも出来た事

- ・ 昨年同様に、運動会や授業参観の規模が縮小されたが、三密を感じずに参加する事が出来た。各校とも、授業参観を午前・午後に分けたり、連続して引き渡し訓練を実施するなど、行事をコンパクトにする工夫をされていた。
- ・ 運動会については、学年ごとに開催し、他の学年は授業をする方法をとった学校もあった。イベントが少なくなっているのは、各校とも同じ。給食の試食会や発表会などがなくなってしまった学校もあるとのこと。コロナ禍において、給食をともなう交流会は、ほぼ開催出来ない状況がわかった。
- ・ 奉仕作業について、昨年から実施自体が不安定の学校もある。ボランティアで作業員を募る学校が多かった。草刈り機の保有率が高い学校については、草刈り機班→手作業班などの順番で行うのが多いうえだった。なかには、専門業者やシルバー人材など、PTA会費を使って奉仕作業を外注することを検討される学校もあった。

■ PTA役員の決め方について

- ・ 各校とも、立候補優先で枠が埋まらなければ抽選を実施している。
- ・ 言葉の壁であったり、家庭の事情などで学校側が承認すれば、免除をしている所もあった。
- ・ 各校において、免除期間がバラバラであった。
免除一切なし、3年間免除、最大6年間免除、永久免除、など
- ・ 立候補したくない理由として、
「会議など時間を割くのが大変である」、
「人前で話すのが苦手」、

「運動会前日、深夜の場所取りに対する近隣住民からの苦情受付に立たされている」など様々。

積極的に改善を試みている学校もあり、PTA役員で、不要と思う行事、挨拶などを無くした所もあった（卒業式の会長祝辞など）。

■ G I G A スクール構想について

- ・現状では、積極的にタブレットを使って積極的な授業をしている実感がない。
- ・使用実例としては、
 - 音楽の授業で曲に合わせた映像を見る、
 - 理科、社会で資料写真をみる、
 - 黒板の代わりに使用して、子ども達の回答例を画面共有する、
 - 体育の授業で走り方を動画撮影し、フォーム改善する、
 など、メリットを感じている。
- ・デメリットとしては、タブレットが子どもたちの学習机に対して大きすぎるのではないのか、という意見があった。タブレットスタンドを取り入れる、学習机の見直しなど、子どもたちが安心して扱える環境が必要ではないのかとのご意見もあった。
- ・高学年におなると、キーボードで文字を入力をする授業もあるようだが、どう対応をすればよいのか迷う子どもたちがみられるとのこと。ローマ字入力を先生から指示されているが、慣れていない子どもたちがいるため、低学年のうちから少しずつ慣れる環境があった方がよいとのご意見もあった。
- ・YouTubeの検索フォームで、あえてローマ字入力をさせているご家庭もあった。
- ・ただ、スマホやタブレットでは、フリック入力で慣れている子どもたちも多くいる現状。学校の求めるスキルと、子どもたちが既に習得しているスキルにズレがあるようにも思える。
- ・動画を友達に撮られることが嫌な子どももいる。からかわれる対象になっている場合もあるとのこと。
- ・全体を通して、タブレットの導入は、「どんな授業で、どのように使われ、どんな成果をあげているのか」分からないという印象であった。各校でフィードバックしてもらう時期がいるのではないかとご意見もあった。
- ・難しくなっている英語の授業について、英語動画を取り入れた授業を試みるのはどうか、とのご意見もあった。

■ 今回の交流会について、今後の交流会について

- ・各校のPTA活動・タブレット使用状況を聞いて大変よかったとのご意見が多かった。
- ・次回以降の交流会にて、以下の内容を確認したい。
 - ・タブレットの使用状況の確認、使用環境の改善（机サイズなど）
 - ・修理を伴ったタブレットに対して、原因と検証
 - ・子どもたち目線での、タブレット使用に対する意見
 - ・PTA活動の縮小（活動規模・動員人数など）

グループD

参加小学校：誠之小、南立誠小、一志東小、白塚小、養正小、修成小、栗葉小（参加人数：7名）
 司 会：岩松 大介
 記 録：西村 豊

■ G I G A スクール構想について

- ・学校でどのようにタブレットを活用しているのかわからない。
- ・下の学年の子より、上の学年の子の方が簡単な内容のことをしている。
- ・また、先生によっては授業の資料にタブレット端末やパソコンを活用したり、先生によってスキルにかなり差がある。
- ・自宅でタブレット端末などを利用している子どもたちの方が大人より使いこなしている。
- ・G I G A スクール構想についての説明を聞かせて頂きましたが、子どもから聞いたやっている事は、タブレット端末に慣れる程度の簡単な内容。
- ・G I G A スクール構想の説明が難しく保護者には伝わっていない。
- ・先生の得意、不得意がかなり影響されると思います。

■ P T A 活動（学校行事）について。

- ・活動の簡略化、縮小傾向の学校と、中止の学校がありました。
- ・人数制限や感染予防対策、来場者の把握など工夫して実施している。
- ・美化活動などはマスクを着用したままでは熱中症のリスクがともなうため、涼しい時期に実施。
- ・運動会については、学年ごとに観覧者を入れ替えて蜜を避ける。体育の延長で半日程度で終わらせる。平日の午前中に時間短縮して実施するなどの工夫をされているようです。
- ・一方で、学年行事は開催する方向で計画していましたが、集まるのも不安との声が多かったので今年も中止。
- ・人が集まる行事は中止している。
- ・美化活動を外注、または本部役員と先生のみで実施。
- ・廃品回収がなくなり、置き場を作り随時受付、量が集まり次第処理依頼をしている。
- ・隣接する他校で行事が中止になった場合に影響される。
- ・総会が書面決議になり、今後も書面決議で良いのではないかと集まる必要はあるのだろうか？という意見が出ている。
- ・信任決議ではなく不信任決議に変更し集計の負担を軽減。
- ・決議にGoogleフォームのWebアンケートを活用し電子化、ペーパーレス化と家庭との往復書類削減。
- ・Webアンケートでも過半数の票を集めることが出来たとのことでした。
- ・校長先生と話合いをする時間が増えたとの意見もありました。

■ 本部役員の選出方法について

- ・会長は抽選と選任の学校がありました。
- ・役員の選定も学校によって違い、すべて声掛けにて募集、免除される人以外から投票、くじ引き、抽選など様々です。
- ・直接声をかけて募集するので、意思や考えなどを直接聞くことが出来る。積極的な勧誘活動が必要。
- ・抽選の事前に除外申告を提出していただき、特別な理由で活動への参加が難しい方を事前に除外しておくことでスムーズに選出出来た。
- ・集まって決めることが難しいため、立候補募集の時期を早め、選定を早めた。

- ・ 役員の任期話題もあり、
1 年任期の方の意見として前例に倣う事が出来なくてわからないことが多い。
2 年任期の方の意見として任期が長い、1 年だと立候補者が増えるのではないかな？

■ 通学路の交通安全

- ・ 開発などで新しい道が出来たので、通学路変更はどのように検討したらいいのか悩んでいる。
- ・ また、P 数の増減によって、集まる場所を変えたい所などもある。
- ・ 通学団の管理、立哨当番、旗当番など、校区によっては交通安全父母の会、地区委員、自治会、子ども会など地域住民との連携が少ない、もしくは連携がない、団体がない。
- ・ 交通安全父母の会は管轄によって活動内容に違いがあって、負担が大きく、メリットも無いため、脱退している、脱退を検討している所もありました。

グループ E

参加小学校：桃園小、一志西小、育生小、神戸小、大里小、高茶屋小、白塚小（参加人数：7 名）
司 会：橋村 和子
記 録：片岡 美穂

■ G I G A スクール構想について

- ・ 授業参観の際に、タブレットを使用しているのを目にした。
- ・ G I G A スクール構想は、子どもたちの未来にとっては必要なことだと思うが、学校だけが先走りしているような気がする。
- ・ 事前にもっと親が理解できるような説明をするべきではないか。
- ・ 親はついていけないところがある。
- ・ 今後、全国でタブレットを活用して授業を進めるのであれば、もっと根本的な授業内容の格差を無くすような対策も必要ではないか。
- ・ 教える先生によって、理解しやすい、しにくいなど、指導者のレベルによっても子どもの学力に影響していることも考えて欲しい。
- ・ 今のところ、子どもたちは楽しそうに学習しているが、この G I G A スクール構想を推し進めることによって、日本社会はどこに向かっていくのか。
- ・ A I 技術の進歩は素晴らしいが、その反面、A I による代替可能性が高い職業も増えることにより、就職先がどんどん減少するなど、子どもたちの選択肢がどんどん限られるのではないかな。親としては予測しにくい未来に不安要素が多々ある。

■ P T A 活動（学校行事）について

- ・ コロナの影響で、昨年度から様々な学校行事が中止になっている。
- ・ プールの授業も同じ津市内にも関わらず、実施する学校と実施しない学校があるのはなぜか。
- ・ P T A 活動においては、コロナ禍だったからこそ見直すべき点も多くあった。
- ・ 引き継いだ慣例の活動を行っているだけでは、子どもたちにプラスだとは思えない。

- ・時代や環境も変化しているので、その時々で子どもたちが必要とする環境を整えていくことがP T Aとして大切な役割ではないか。
- ・コロナを機に、行事内容や任務内容などの見直しを図り、生活様式も様変わりした現代において、保護者の負担も軽減していく必要があるのではないか。

■本部役員の選出方法について

- ・なぜ本部役員になりたがらないのかを見直す必要がある。
- ・P T A活動というものが、本部役員ばかりの負担になっている現状が、役員選出にも影響するのではないか。
- ・もっと積極的に保護者が参加したくなるようなP T A活動の改革を行わない限り、本部役員選出における様々な課題はいつまでたっても解決しないのではないか。

グループF

参加小学校：上野小、立成小、一志西小、南立誠小、倭小、家城小
 司 会：北角 真一
 記 録：神谷 のぞみ

(参加人数：6名)

■コロナ禍でのP T A活動

- ・昨年度の行事等ほとんどできていない学校や縮小して行った学校が多く、今年度も引継ぎの会議はしたもののまだほとんどP T Aとして実質的には動いていないという学校と、小規模校なので、運動会や奉仕作業も縮小や工夫をして行った学校とに分かれた。
- ・児童数の少ない小規模校では、運動会も保護者の人数を制限したり、声を出さずに手作りの鈴で応援するなどの工夫をしたりして、土曜授業の一環として実施している。
 実施できた学校もやはり例年通りというわけにはいかず、祖父母が参加できないなど、残念な思いでいる人もいる。
- ・恒例となってきた地域との行事も中止にせざるを得ず、子どもたちのために別のかたちで何かできないかを模索しているP T Aもある。
- ・このコロナ禍において、例年行われてきたことだけでなく、理念や思いも含めて引き継がれていかないことへの不安を感じる。この状態が2年3年と重なる中で、「やらなくてもいいなら、やらなくていい」という大人の感覚が子どもの世界に悪影響を及ぼすのではないか。面倒なことが多くても、「やった結果、やってよかった」という思いが引き継がれていかないのではないかという不安がある。
- ・運動会などは、動画を実況中継するなどの工夫も今後は考えてもよいのではないか。プライバシー保護も大事なので、保護者しか入れないようにI Dを発行するなどの対策も必要。子どもたちがナレーションをあげるなどの工夫もできるかもしれない。

■役員の選出

- ・地区割りのローテーションで決めているところ、地区の人数が減ってきたために、学年ごとに選出するようになったところ、歴代の役員が顧問となって、一本釣りのようなかたちで会長をきめるところ、役職は自分達で決めるところ

- ろ、くじで、など学校によってさまざま。
- ・コロナ禍で前年度の引継ぎ資料がない中での会長職は、負担感が大きい。
 - ・学校側がサポートしてくれるところもあるが、動員などはグループラインや輪番表のくじで回しているところも多い。それでも「みんなが無理」となった場合に「会長だから行かなければ」というプレッシャーがあるのではないかな。
 - ・式典の挨拶を敬遠する人も多いので、「会長だから」ではなくて、本部役員の中で「行ける人が行けるときに」「やれる人がやれるときに」というふうに、できるだけ仕事の偏りをなくしていけるとよい。

■GIGAスクール構想

- ・今回の研修会で、知らなかった取り組みを知れたのはよかった。
- ・家でも学校でもタブレット漬けになってしまうのではないかと心配が増したので、今後はその不安を消すような勉強会もお願いしたい。
- ・今の子どもたちは、ITについては放っておいても覚えていくのではないかな。
- ・プレゼン能力を高めるなどの目的は良いと思うが、やり方に問題を感じる。
- ・むしろ英語をしゃべれるようにした方がいいのではないかな？
- ・パソコンに触れることは大事だが、メールだけでなく、自分の言葉で発信することやコミュニケーション能力の重要性をもっと伝えるべきではないかな。
- ・小学校の間は、人と話せる（機器に頼らない）力を身につけてほしい。
- ・ネットに依存しすぎることの危険性についてももっと発信すべきで、小学校の間にそのことをちゃんと身につけた上で、中高で技術的なことを磨けば良いのでは？
- ・家に持ち帰るときにケースなしで、タオルでくるんで、というやり方では、破損などの不安がある。
- ・W i - F i 環境もそれぞれお家で事情がある。

■次回どんな内容？

- ・11月ならワクチンにより状況も変わっていると思われるので、今から11月までの活動を報告し合い、共有し合うのがよい。
- ・今回小規模校、中規模校で学校行事がやれているところとやれていないところと両方の状況をきけたので、参考になった。

グループG

参加小学校：香良洲小、豊津小、大三小、安東小、明合小、新町小、楡形小（参加人数：7名）
 司 会：朝倉 禎三
 記 録：柿木 雅代

■PTA活動（学校行事）について

- ・運動会については、平日に開催されている学校が多く、児童数が多い学校では学年別や低中高学年に分けて行われたり、組体操を省くなど種目にも配慮がされていた。
 観覧者は保護者数名までとし、学校によってはグラウンドの外からの見学、場所取りはなし、テント貼りはなし等、感染対策をされていた。
- ・授業参観については、昨年度実施していなかった学校も今年度は2、3限に

分けて保護者1人まで参加可能とし、すでに実施された学校や今後実施予定の学校もある。

- ・プールについては、ほとんどが中止の中、高学年のみ実施する学校や、一度に入る人数を減らし、子どもたちの間隔をあけて感染予防に気をつけながら実施する学校もある。
- ・夕涼み会等PTAが中心の祭りの行事は、昨年度に引き続き今年度も中止になった学校がほとんどだが、6年生対象にミニ夕涼み会を学級委員が中心になって行う学校や、6年生のために何かできないかPTAから学校へ声をかけている学校もあった。

■ P T A 役員の選手について

- ・本部役員を一度するとその後は免除となるが、対象が会長だけか本部役員なのか範囲は学校によって異なる。
- ・5年生の保護者から副会長を選び、6年生にスライドして会長となるので、会長は1年毎交代することになるが、副会長をしてから会長になるのである程度のことが分かってよい。
- ・立候補者はほとんどいないので、抽選になることが多いが、コロナ禍の中では集まる機会が少ないため、抽選する場が設けにくい。抽選になった場合は集まってもらうが、欠席者には委任状を提出してもらい、選出の対象としている。
- ・立候補者がいない場合は、子どもがくじを引いて名簿が作成され、その中から投票によって選出される。
- ・本部役員の会長・副会長の仕事の負担減のために、本部役員以外の役員にも仕事を分散している。
- ・行事の際に会長の挨拶をすることを嫌がる人もいるので、重要性があまりないのであれば挨拶はなしにしても良いのではないかな。

■ G I G A スクール構想について

- ・授業参観の時に使用しており、算数や美術でも使っていた。子どもから学校でどのように使っているか話をあまり聞くことがないので、授業参観で実際に子どもたちが使っている様子を見るのが良い。
- ・タブレットを今後持ち帰ることになった際に、家庭学習で使えるように学校でも教えてほしい。
- ・先生が扱えていないのではという心配もあるが、タブレットでの学習であれば、全国の有名な先生の授業を一斉配信するなど、いろんな展開が考えられるのではないかな。

■ まとめ

- ・G I G A スクール構想について、詳しく話が聞けたのはよかった。
- ・タブレットの自宅活用に向けて早めに取り組んでほしい。
- ・各学校の話が聞けて、取り入れられそうなことや参考になったことも多く、交流会での話をPTAや学校へのフィードバックをする機会設けていきたい。

グループH

参加小学校：みさとの丘、黒田小、片田小、栗真小、川口小、修成小、大里小（参加人数：7名）
 司 会：水谷 秀美
 記 録：山本 由希子

■ P T A 本部役員の選出方法

- ・まず、任期は 1 年～2 年。
- ・2 年任期の学校は、役員のうち半分が 1 年目、もう半分が 2 年目となっており、引継ぎ等が円滑にいく。
 副会長から会長へ、会長から顧問へというパターンも。
 免除については本部 2 年で永久、会長のみ、免除制がないなど、様々。
 生徒数の減少により、すぐに役が回ってしてしまう現状の学校もあり。
- ・ほとんどの学校が立候補、もしくは未経験者の中からの抽選でしたが、推薦方式の学校もあった。
 そうなると、名簿の一番上の人や転校生が当たりやすい傾向になっているようで、抽選へ変更したい旨を学校側に伝えるも、規約変更になるため、なかなか動き出せず。
- ・本部役員を皆が嫌がるのは仕事内容が明瞭でないからなのではないか。
- ・新入学の保護者にも分かりやすいよう、組織図や仕事内容をあらかじめ提示すべきでは？
- ・挨拶のテンプレートも作っておき、誰もがプレッシャーを感じずにできるようにしていきたい。
- ・任期 1 年では、学校のことが分かってきた頃に終了となってしまうので、よりよい P T A 活動へと変革をしていくのならば、2 年以上あるほうがやりやすいのではないか。

■ コロナ禍での学校行事

- ・運動会は、平日、短縮で昨年と同様に行われているところが多い。
- ・プールも昨年同様中止だが、2 年間放置はできないので掃除のみ実施する学校あり。
 学校から業者に清掃を依頼するも、支払いは P T A 会費からとお願いされる場合も。
- ・コロナ禍が終了した後も、今までの行事がちゃんと復活するのか心配。
- ・父母の会へ入会している学校は少ないが、旗持ち当番は全校が行っていた。

■ 登下校、体育時のマスク着用について

- ・保護者としては、熱中症等が心配なので「しなくていいよ」と声掛けしている人が多い。
 しかし、上級生やクスメイトからの“マスクいじめ”が心配である。
 保護者としては、先生から「どっちでもいい」と言ってほしいが、学校側は何かあったときのため「しなくていい」とは言えない。
 P T A で何か呼びかけをしていくか、学校ごとに話し合いをしていく。

■ まとめ

- ・他校の意見を聞くことで、本部役員の運営方法等とても刺激になった。
- ・生徒数の減少も問題になっている学校も多く、今後は誰もがやりやすいような本部役員を目指し、組織図など制作していきたい。既に実施している学校もあるので、今後も定期的に情報交換をしていける場が欲しいと思った。

グループⅠ

参加小学校：村主小、倭小、高野尾小、明小、ハッ山小、北立誠小、南が丘小（参加人数：7名）
 司 会：早川 憲介
 記 録：西 朋子

■ P T A 活動について（実施したこと・実施予定のもの）

- ・児童数 50 人前後の学校
 クリーン活動、廃品回収、授業参観、総会、修学旅行、
 地域のお祭り（飲食なし）、
 プール（学校により実施している所、実施していない所がある）
- ・児童数 500 人以上の学校
 クリーン活動、運動会、球技大会、修学旅行、総会、授業参観
 （プールは実施していない。）

■ 役員の選出方法について

- ・立候補を募る
- ・現会長が後任者を指名する
- ・前年度の副会長が会長になる、など
- ・学校により選出方法が違う
- ・世帯数の少ない学校では、役員になる回数が多くなるので、本部役員、専門部、学級委員などの仕事内容を見直し（削減出来る所、まとめて出来る所など）、役員の負担を減らす取り組みや、専門部を統合することで、役員数を減らして、役員に当たる回数を少なくしている
- ・役員免除は学校により違いがある。

■ その他

- ・保護者への配布物をきずなメールの添付機能を利用してデーター配信することで、ペーパーレス化、印刷時間や手間を省いている所もある。
- ・スローガンを決めて、P T A 活動をしている所もある。
 （3つのSでスマート化、削減、スピード感、正確性）

■ まとめ 今後に生かしていける・展開していけそうな事項等

- ・少人数での交流会だったので、それぞれの学校の課題や取り組みについて、ゆっくり聞くことができた。
- ・交流会で聞いた話をそれぞれの学校で、どのように活用したか（後日、配布される討議記録の活用方法など）参考にして実施したことがあったかなど、交流会後の取り組みについて話しが聞ける機会があっても良さそう。

グループJ

参加小学校：楡形小、美杉小、草生小、家城小、榊原小、戸木小、安濃小 （参加人数：7名）
司 会：中谷 健一
記 録：西 一江

■本部役員の選出方法について

- ・ほとんどの学校では5年生の学年の保護者が会長になる所が多い。
- ・児童数の少ないところは、保護者同士がその家族の背景もよくわかっている
ので助け合いながら役員をしている。
- ・毎年役員が当たる所もある
- ・役員の決め方としては自ら立候補で毎年決まるところもあれば、児童にくじ
引きをさせて決めるところもある。
- ・授業参観の後に、保護者がくじ引き、来れないところは委任状を書いて、先
生にくじ引きをしてもらう。
- ・今、コロナの影響で集まる事自体が難しい。

■PTA活動について

- ・運動会は学年ごとに分けてのところや、全体的にして午前中で終わるところ
もある。
- ・プールは密になるのと、マスク着用が難しいため、しないところが多い。
- ・草むしりについては、今までなら、全保護者でしていたところも、1週間の
間に行ける日に草むしりをして、終了後、職員に報告するところもある。自
治会が協力してくれるところもある。

■GIGAスクール構想について

- ・まだ今のところ、どんなことをしているのか分からない保護者もいる。
- ・これから長期で休む子どもたちに活用出来ればいいと思う。
(例えば、コロナ濃厚接触者など)

参考資料

【 交流会 全体会 】

「 G I G A スクール構想について」

津市教育委員会事務局

配 布 資 料

津市PTA連合会交流会

津市GIGAスクール構想に基づく 今の学校教育について

津市教育委員会事務局
教育研究支援課
教育研究・情報教育担当

今日のながれ

1

- ①はじめに
- ②新学習指導要領について
- ③津市GIGAスクール構想について
- ④おわりに

およそ10年ごとに、学校で学習する内容は変わっています。

社会人になったとき、必要な力は何かを考え、国が、学校で学習する内容を決めています。



10年前の2011年
小学5・6年生に「外国語活動」が創設
20年前の2002年に「総合」が新設
30年前の1992年に「生活」が新設

津市 GIGA スクール構想による1人1台端末の活用

新しい時代に必要となる資質・能力、「学びの向かう力」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の習得をめざし、児童生徒が「自ら考え主体的に行動できる力」を育成するためのツールとして活用する。

「教える」



インプット中心



「学びとる」



アウトプット中心

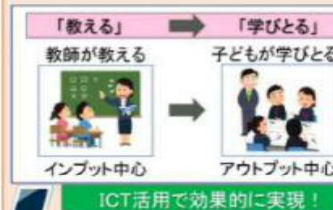
「新時代の学び」に向けた1人1台タブレット端末の活用について ～ 教師編 ～

目的

新しい時代に必要となる資質・能力「学びに向かう力」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の習得を目指し、児童生徒が「自ら考え主体的に行動できる力」を身に付けるためのツールとして活用すること。



タブレットを活用して授業観の変革・授業改善を



子どもによる効果的なICT活用 ⇒ 「主体的・対話的で深い学び」の実現

自分たちで撮影・録画できる。



観察・実験の写真、音読の録音、技能の動画を共有する。

考えや資料をもとに話し合える。



ロイノートで、考えをアウトプットし、共有する。

自分の考えを整理できる。



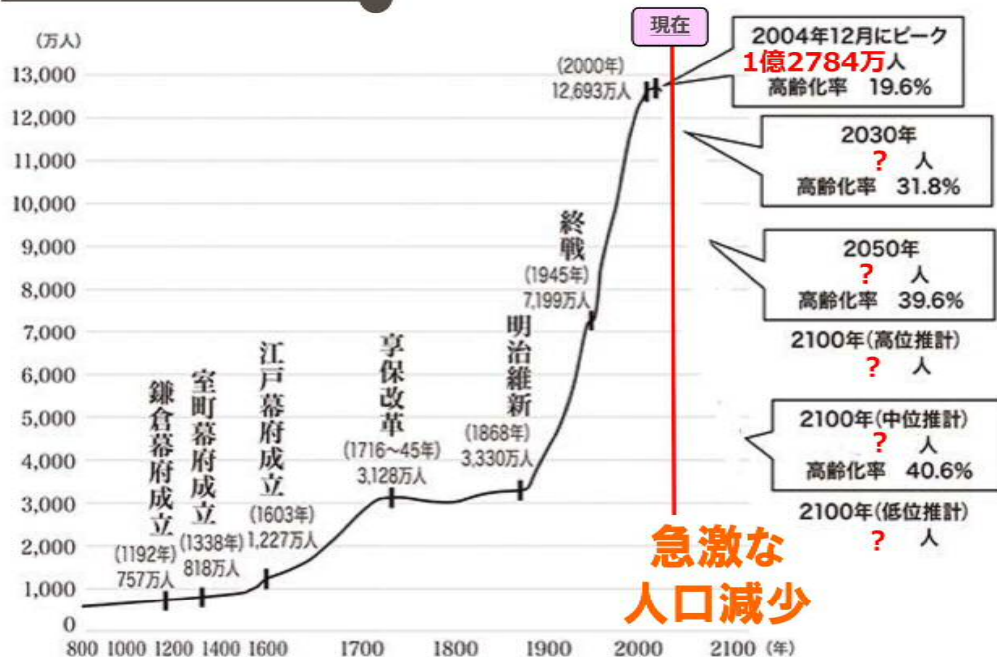
シンキングツールを使って、考えを整理する。

様々な方法で試行錯誤できる。



横のペアで、タブレット端末を操作しながら考えを深める。

日本の人口予測



2020年1月1日時点の人口
1億2713万人

日本人は前年から50万人減の
1億2427万人

80年後の2100年の
日本の人口は？

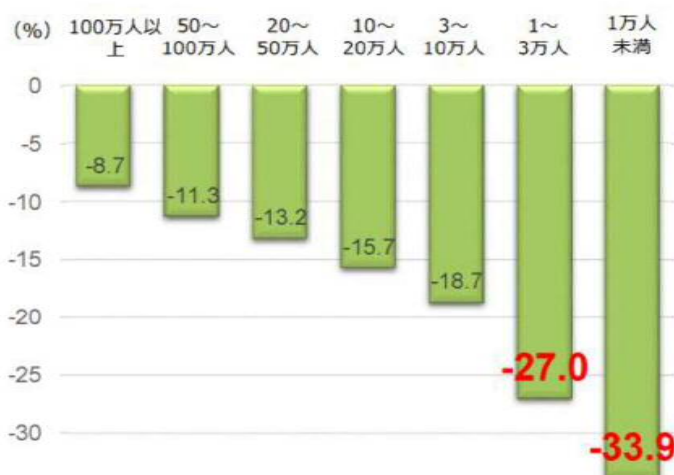
- ① 8000万人以上
- ② 6000万人以上
8000万人未満
- ③ 6000万人未満

人口減少、生活水準の低下は、地方においてより深刻

● 自治体の人口減

- ・1～3万人、1万人未満の自治体は、**人口減少率が相対的に大きい**

【市区町村の人口規模別の人口減少率】
(2040年人口の2015年比(%))



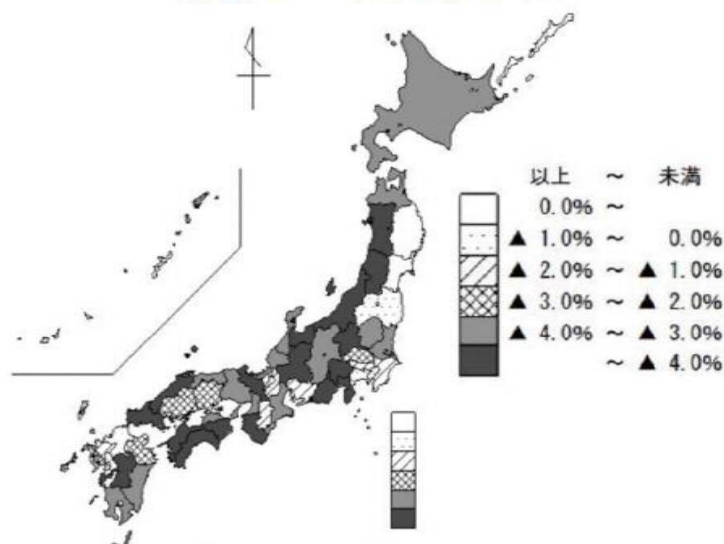
出典:総務省

「自治体戦略2040構想研究会(第1回)」
事務局提出資料

● 地域経済の縮小

- ・地方において、休廃業等による**事業所数減少が顕著**
- ・地方の公共交通機関等の**公的サービスが減少**

【都道府県別事業所数増減率】
(平成24年→平成28年の比較)

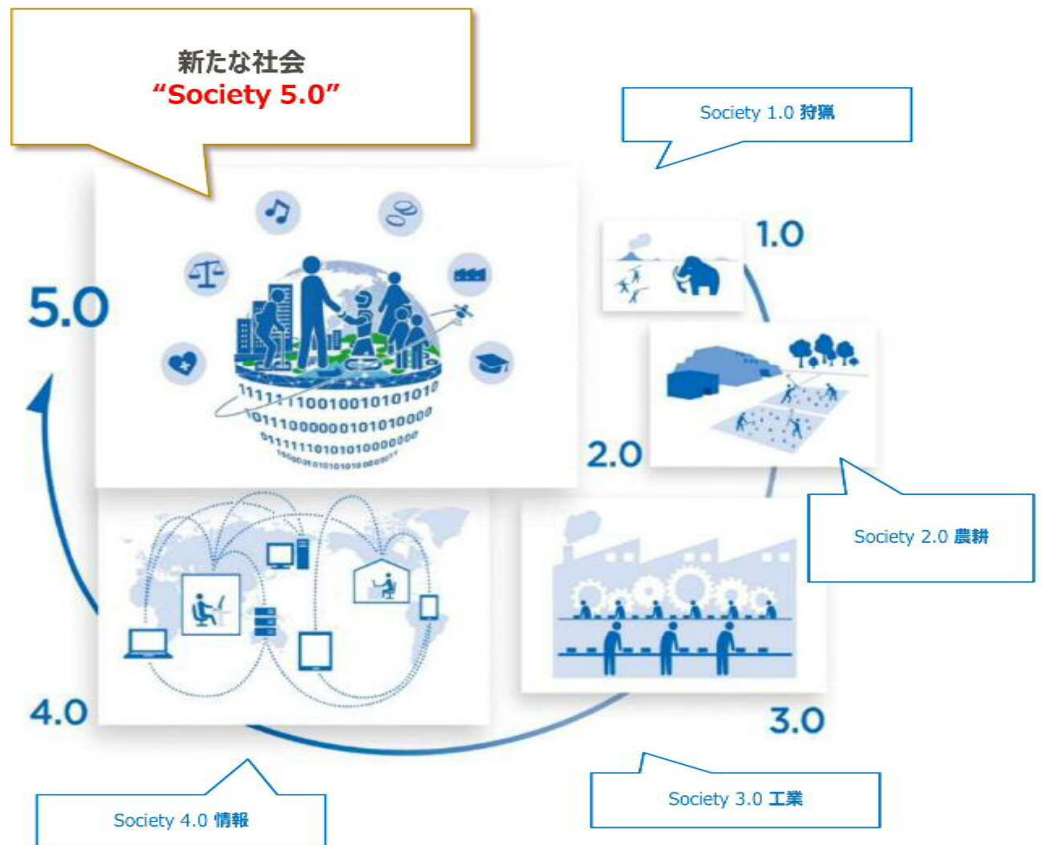


出典:総務省・経済産業省

「平成28年経済センサス活動調査(速報)」

進化した人工知能（AI）が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来（第4次産業革命）が、社会や生活を大きく変えるとの予測。

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会であるSociety 5.0の到来が予想。



【出典】内閣府ホームページ等より作成



新しい価値やサービスが創出され、人々に豊かさをもたらす新たな社会Society5.0の到来
⇒ くらしやはたらき方も変わる

来るべき未来の予測

「今後10年～20年程度で、**半数近くの仕事が自動化**される可能性が高い」

マイケル・A・オズボーン准教授：※英・オックスフォード大学

「人工知能の発展で2045年以降は人間の脳では予測不可能な未来が到来する」

レイ・カーツワイル：※米 発明家、未来学者

“今、学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないか”

“人工知能の急速な進化が、人間の職業を奪うのではないか”といった不安の声

予測できない変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い・関わり合い、
自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるため
の力を子どもたちに育む学校教育の実現を目指す。

学習指導要領改訂の方向性

人工知能でロボット等による代替可能性が高い約100種の職業

- | | | | | | |
|-------------------|---------------------|----------------|-------------|----------------|----------------|
| ・ I C 生産オペレーター | ・ 一般事務員 | ・ 鋳物工 | ・ 医療事務員 | ・ 受付係 | ・ 通信機器組立 |
| ・ 修理工 | ・ 駅務員 | ・ N C 研削盤工 | ・ N C 旋盤工 | ・ 会計監査係員 | ・ 加工紙製造工 |
| ・ 貸付係事務員 | ・ カメラ組立工 | ・ 機械木工 | ・ マンション等管理人 | ・ 銀行窓口係 | ・ C A D オペレーター |
| ・ 給食調理人 | ・ 教育事務員 | ・ 行政事務員（国県市町村） | | ・ 金属熱処理工 | ・ 金属加工 |
| ・ 金属製品検査工 | ・ 金属研磨工 | ・ 金属材料製造検査工 | | ・ 検収検品係員 | ・ 金属プレス工 |
| ・ クリーニング取次店員 | ・ 計器組立工 | ・ 警備員 | ・ 経理事務員 | ・ 梱包工 | ・ 検針員 |
| ・ 建設作業員 | ・ ゴム製品成形工（タイヤ成形を除く） | | | ・ 自動車塗装工 | ・ サッシ工 |
| ・ 産業廃棄物収集運搬作業員 | | ・ 紙器製造工 | ・ 自動車組立工 | ・ 水産ねり製品製造工 | ・ 出荷発送係員 |
| ・ 塵芥収集作業員 | ・ 人事係事務員 | ・ 新聞配達員 | ・ 診療情報管理士 | ・ 清涼飲料ルートセールス員 | ・ スーパー店員 |
| ・ 生産現場事務員 | ・ 製パン工 | ・ 製粉工 | ・ 製本作業員 | ・ 倉庫作業員 | ・ 惣菜製造工 |
| ・ 石油精製オペレーター | ・ セメント生産オペレーター | | ・ 繊維製品検査工 | ・ 鍛造工 | ・ 駐車場管理人 |
| ・ 測量士 | ・ 宝くじ販売人 | ・ タクシー運転者 | ・ 宅配便配達員 | ・ データ入力係 | ・ 電気通信技術者 |
| ・ 通関士 | ・ 通信販売受付事務員 | | ・ 積卸作業員 | ・ 電車運転士 | ・ 道路パトロール隊員 |
| ・ 電算写植オペレーター | ・ 電子計算機保守員（IT 保守員） | | ・ 電子部品製造工 | ・ 非破壊検査員 | ・ ビル施設管理技術者 |
| ・ 日用品修理ショップ店員 | ・ バイク便配達員 | | ・ 発電員 | ・ プラスチック製品成形工 | ・ プロセス製版オペレーター |
| ・ ビル清掃員 | ・ 物品購買事務員 | | ・ 保管管理係員 | ・ 保険事務員 | ・ ホテル客室係 |
| ・ ボイラーオペレーター | ・ 貿易事務員 | ・ 包装作業員 | ・ めっき工 | ・ 麺類製造工 | ・ 郵便外務員 |
| ・ マシニングセンターオペレーター | | ・ ミシン縫製工 | ・ 列車清掃員 | ・ レンタカー営業所員 | ・ 路線バス運転者 |
| ・ 郵便事務員 | ・ 有料道路料金収受員 | ・ レジ係 | | | |

人工知能でロボット等による代替可能性が低い約100種の職業

- | | | | | | |
|----------------|----------------|------------|---------------|---------------|--------------|
| ・アートディレクター | ・アウトドアインストラクター | ・アナウンサー | ・アロマセラピスト | ・犬訓練士 | ・医療ソーシャルワーカー |
| ・インテリアコーディネーター | ・インテリアデザイナー | ・映画カメラマン | ・映画監督 | ・エコノミスト | ・音楽教室講師 |
| ・学芸員 | ・学校カウンセラー | ・観光バスガイド | ・教育カウンセラー | ・クラシック演奏家 | ・グラフィックデザイナー |
| ・ケアマネジャー | ・経営コンサルタント | ・芸能マネージャー | ・ゲームクリエイター | ・外科医 | ・言語聴覚士 |
| ・工業デザイナー | ・広告ディレクター | ・国際協力専門家 | ・コピーライター | ・作業療法士 | ・作詞家 |
| ・作曲家 | ・雑誌編集者 | ・産業カウンセラー | ・産婦人科医 | ・歯科医師 | ・児童厚生員 |
| ・シナリオライター | ・社会学研究員 | ・社会教育主事 | ・社会福祉施設介護職員 | ・社会福祉施設指導員 | ・獣医師 |
| ・柔道整復師 | ・ジュエリーデザイナー | ・小学校教員 | ・商業カメラマン | ・小児科医 | ・商品開発部員 |
| ・助産師 | ・心理学研究者 | ・人類学者 | ・スタイリスト | ・スポーツインストラクター | |
| ・スポーツライター | ・声楽家 | ・精神科医 | ・ソムリエ | ・大学短大教員 | ・中学校教員 |
| ・中小企業診断士 | ・ツアーコンダクター | ・ディスクジョッキー | ・ディスプレイデザイナー | | ・デスク |
| ・テレビカメラマン | ・テレビタレント | ・図書編集者 | ・内科医 | ・日本語教師 | ・ネイルアーティスト |
| ・パティシエ | ・俳優 | ・鍼灸師 | ・美容師 | ・評論家 | ・ファッションデザイナー |
| ・フードコーディネーター | ・舞台演出家 | ・舞台美術家 | ・フラワーデザイナー | ・フリーライター | ・プロデューサー |
| ・ペンション経営者 | ・保育士 | ・放送記者 | ・放送ディレクター | ・報道カメラマン | ・法務教官 |
| ・マーケティングリサーチャー | ・漫画家 | ・ミュージシャン | ・メイクアップアーティスト | | ・盲聾養護学校教員 |
| ・幼稚園教員 | ・理学療法士 | ・料理研究家 | ・旅行会社カウンター係 | | ・レコードプロデューサー |
| ・レストラン支配人 | ・録音エンジニア | | | | |

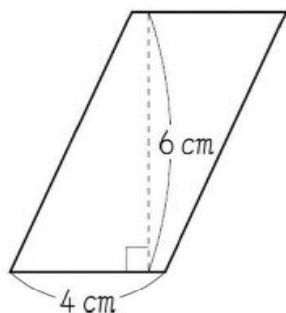
出典：野村総合研究所 2015年12月2日

学習指導要領改訂の背景

11

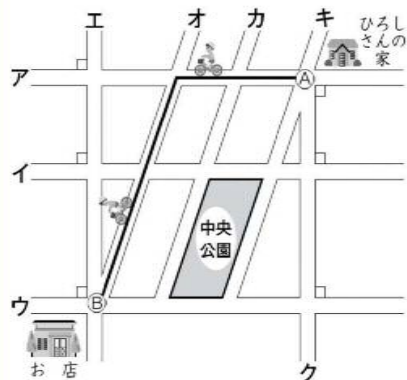
H19 全国学力・学習状況調査より

A問題



A問題：正答率 %

B問題



- 道路ア、イ、ウは平行です。
- 道路オ、カ、キは平行です。
- 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路エに垂直です。
- 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路クに垂直です。

B問題：正答率 %

「情報活用能力」

情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な力

A 情報活用の実践力

- 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
- 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

B 情報の科学的な理解

- 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
- 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

C 情報社会に参画する態度

- 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- 情報モラルの必要性や情報に対する責任
- 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

【具体例】

●ICTの基本的な操作、情報の収集・整理・発信

(文字入力、インターネットなど情報手段の適切な活用等)



●プログラミング (コンピュータの仕組みの理解等)



●情報モラル

(情報発信による他人や社会への影響、危険回避等)

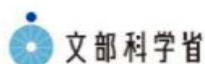


G I G A スクール 構想について

GIGA スクール 構想の実現へ

1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、
資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ



多様な子供たちを

誰一人取り残すことなく、

子供たち一人一人に

公正に個別最適化され、

資質・能力を一層確実に育成できる

教育ICT環境の実現へ

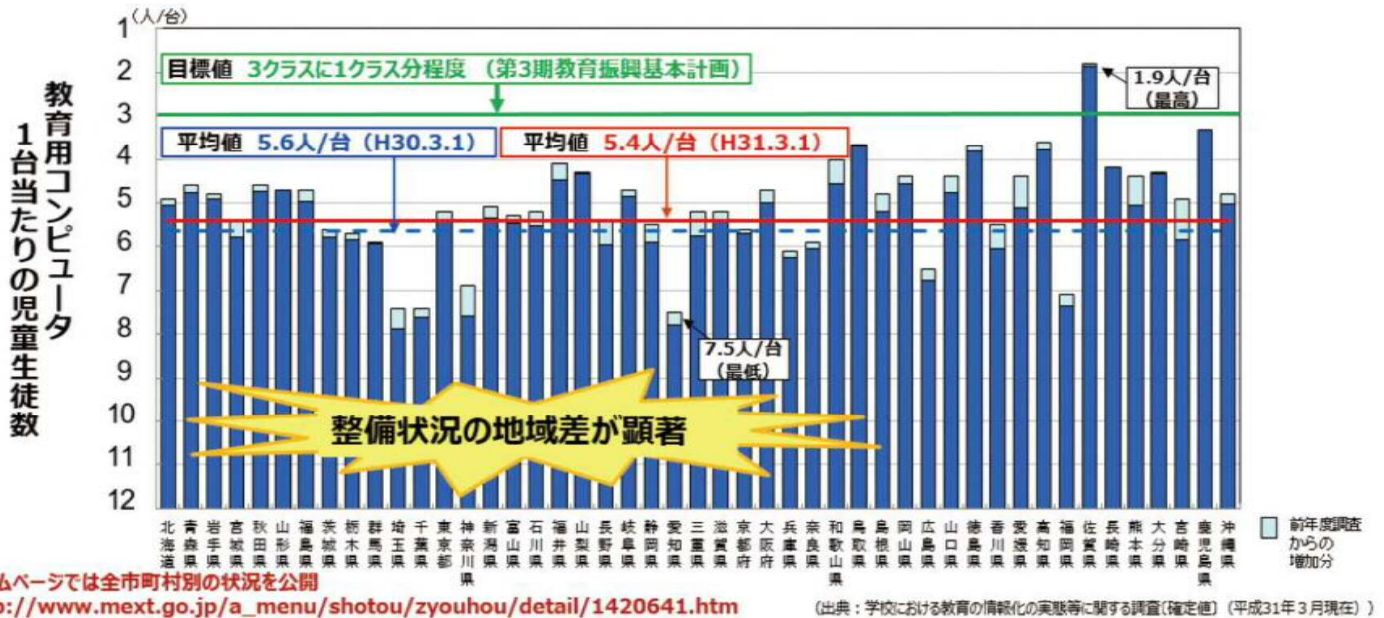
G

I
G

A

1 学校のICT環境整備状況は脆弱かつ危機的な状況

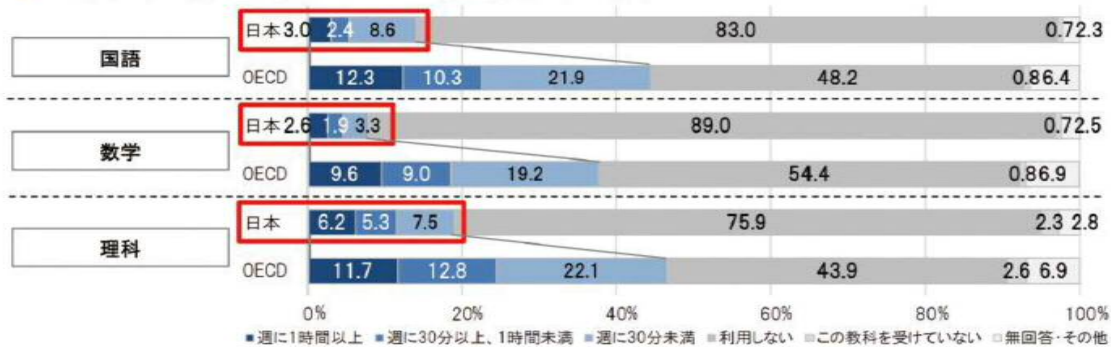
- ✓ 学校のICT環境整備状況は脆弱であるとともに、地域間での整備状況の格差が大きい
危機的な状況



2 学校におけるICT利活用は世界から後塵を拝している状況

- ✓ 学校の授業におけるデジタル機器の使用時間はOECD加盟国で最下位

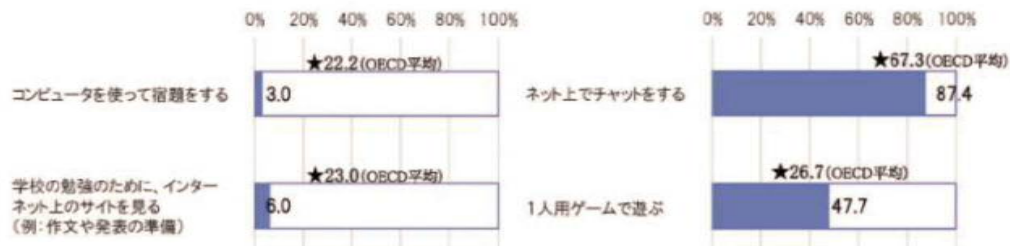
● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



3 子供の学校外でのICT使用は「学習外」に比重

✓ 学校外でのICT利用は、学習面ではOECD平均以下、学習外ではOECD平均以上

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



(出典: OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」)

津市G I G Aスクール構想

17

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。

これまでの教育実践の蓄積

×

ICT

×

学習活動の一層の充実

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

【『1人1台端末』ではない環境】

【『1人1台端末』の環境】

1 一斉学習 ～双方向型一斉授業の実現～

教師が黒板等を用いて説明し、子どもたちの興味・関心・意欲を高めることができます。

深化

子どもたち一人一人の反応を踏まえたきめ細かな指導等、双方向型の授業展開が可能になります。



2 個別学習 ～ニーズや学習状況に応じた個別学習の実現～

同時に同じ内容の学習をする授業を行います。
・一人一人の理解度等に応じた学習が困難です。

転換

一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能になります。



3 協働学習 ～各自の考え等を共有しながら学び合う授業の実現～

グループ発表をさせることは可能であるが一人一人の意見を発信・共有するような授業展開が難しいです。

転換

全ての子どもが、情報の編集を経験しつつ、多様な意見を即時に共有し、共同編集ができます。



主体的・対話的で深い学びの実現

①津市e-Learningポータル

各学校コース、教育委員会コースのコンテンツ（学習動画、ワークシート等）を活用し、子どもたち一人一人の興味・関心に応じた学びが可能となる。また、学習に対するフィードバック機能や、ポートフォリオ機能を使うことで学びを深めることができる。



一斉学習



個別学習

②ロイロノート・スクール

意見や動画等が簡単に共有でき、プレゼンテーションを作成して自分の意見を発表。児童生徒の思考を可視化し、共有するための学習支援アプリを使って、授業のイメージを転換する。特にシンキングツールの活用によって、主体的・対話的で深い学びを実現させる。

⑤Web会議システム（Zoom等）

臨時休業、自宅待機等の非常時など、家庭にしながら、教師や友達とつながって学習を進めることができる。

場所やデバイスを問わずに参加できるとともに、チャット機能等を活用した意見交流等も可能である。

④デジタル教科書

拡大表示、動画提示、書き込み、保存・表示、音声読み上げ、背景色・文字色の変更、反転、ルビ等の機能を使うことにより、様々な学習方法が可能となり、授業改善や特別な配慮が必要となる児童生徒等への学習等、より効果的な学習を展開することができる。



協働学習

③みんなの学習クラブタブレット

教師及び児童生徒が、インターネット上で、必要に応じて問題を選択し、ニーズに合った学習用プリントを作成し活用する。また、マルチメ解説動画や解答ページを使って、学習状況に合わせた支援につながり、個別学習を充実させる。

新学習指導要領の着実な実施
GIGAスクール構想の実現

「津市GIGAスクール構想実現のための手引き」より

おわりに

1 はじめに

児童生徒が社会で活躍する時代は、社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0」の到来、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、少子高齢化の加速化など、社会や産業の構造が大きく様変わりし、先行き不透明で予測することが困難な状況であります。

このような時代において、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、他人に対しても価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています。

こうした学びを実現するため、全ての児童生徒が1人1台端末を文房具のように活用するなど、ICTの効果的な活用とこれまで培ってきた教育実践とを両輪として進め、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていくことで、児童生徒一人一人に寄り添った指導、学習活動の充実を図り、論理的思考力、情報活用能力など、児童生徒の資質・能力をより一層確実に育みます。

Society 5.0時代の到来

Society 5.0とは、2016年に政府により策定された第5期科学技術基本計画の中で提唱され、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会（サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会）と言われています。

進化した人工知能（AI）、ビッグデータ等の先端技術が高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety 5.0時代が到来し、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じつつあると言われています。

- 新学習指導要領の着実な実施
- GIGAスクール構想の実現

予測困難な時代を生き抜く力の育成
持続可能な社会の創り手となる人材の育成

津市GIGAスクール構想
実現のための手引き

【第1版】

令和3年3月
津市教育委員会



令和 3 年度 小学校部会交流会 報告書

令和 3 年 9 月発行

津市 P T A 連合会
